

「7000人の復興会議」における
新たなコミュニティの形成に関する町民の意見・提案（例示）

※8/19 福島会場から 11/11 つくば会場の7会場分まで

【避難先の自治体との交流に関する意見】

- ・復興ならぬ福幸という意識で新たなコミュニティ作りに目を向けるべきではないか。
- ・避難先での横の繋がりを作るべき。自治体の枠を越えて。
- ・若い世代は、避難地での人とのつながりができることによって、今までの繋がりから変化している。
- ・双葉のイベントを再開したい。（避難先との共催もあり）
- ・ずっとこの町（避難先）にいるのであればよい。人間関係を継続させるのがよいが、今の生活では諦めてしまう現状がある。

情報共有とコミュニティの維持に関する町民の意見・提案

※8/19福島会場から11/11つくば会場の7会場分

no.	タイトル	本文（意見の内容）	会議会場
160	要望	新電話帳の発行が望ましい。今後の全ての事業を早急に推進するためにも。	01福島
162	要望	仮の町完全実施。全町民への情報の通知。	01福島
323	名簿	避難民名簿があるといいと思う。	02東京
337	サークル	友人が出来るようにサークルをつくってほしい。	02東京
371	同窓会で	同窓会の時に集まれる場所を。	02東京
381	住民コミュニティ	夢王国、盆踊りの一体感が懐かしい。	02東京
384	コミュニティ作り	復興ならぬ福幸という意識で新たなコミュニティ作りに目を向けるべきではないか。	02東京
391	広報について	震災以降、双葉町で生まれた人、死んだ人の名前が広報から外れている。浪江広報には記事にされている。	02東京
434	情報公開	諸外国と比較して情報公開が遅い。	02東京
435	インフラ	情報を誰でもやり取りできるインフラ作りが急務。	02東京
436	お盆	本当のお盆は同じ福島弁を話す人々と会ったとき強く感じる。	02東京
437	ビデオ会議	ビデオ会議、Google ハングアウト等を活用する。	02東京
438	情報	関東でも情報交換できる様にして欲しい(インターネット環境がなくとも)。	02東京
439	情報誌	インターネットができない人も簡単に情報交換ができるように。	02東京
477	情報交換の場	お互いの情報交換ができる場がほしい。	02東京
478	情報	町の情報ではほしい情報が入ってこない。	02東京
484	情報	情報を提供してほしい。ipad提供希望。	02東京
496	コミュニケーション	コミュニケーションの場を持つ。	02東京
497	運動	みんなで運動のできる機会・場所がほしい。	02東京
503	町民の声	一人一人の声が届かない。	02東京
506	情報	情報を提供してほしい。	02東京
530	みんなで助け合う	これからの生活は不安だらけです。失ったものがあまりにも多すぎて。でも、みんなで助け合って生きていけばなんとかなると思います。	02東京
590	電話代	電話代がものすごく高くなった。双葉の町人と話すとか懐かしくてつい長い電話になってしまう。話さないとストレスになる。	02東京
630	世帯主	情報が世帯主にしか渡らない。世帯主以外でも希望者には情報を提供してほしい。	02東京
654	交流	年代別交流会を開いてほしい。	03柏崎
655	連絡	避難してる人の連絡先がほしい。	03柏崎
659	双葉会	今度柏崎で双葉会を行う。	03柏崎
662	交流会	年一回は、交流会を企画してほしい。	03柏崎
669	コミュニケーション	避難先での住民コミュニケーションがほしい。	03柏崎
684	サポート	柏崎サポートセンターが来年2月までと聞いているので、延長してほしい。手作りの会に参加している。集まる場所になっている。	03柏崎
689	婦人会	石熊婦人会が楽しかった。	03柏崎
741	要望	双葉町の電話帳に携帯番号も掲載してほしい。	03柏崎
742	フェイスブック	双葉町もフェイスブックを活用してもらいたい。	03柏崎
800	娯楽	双葉町にいた仲間とスポーツをしたい。	03柏崎
804	その他	避難先での横の繋がりを作るべき。自治体の枠を越えて。	03柏崎
830	趣味	施設の女の人も男の人も一緒に喋れる施設があるといい。	03柏崎
874	組内コミュニティ	組内のコミュニティが無くなってしまい残念。	03柏崎
876	連絡	連絡を取りたいのに、とれない人もいる。	03柏崎
897	連絡	町は連絡先を教えてくれない。	03柏崎
898	双葉町の人	柏崎には双葉町の人が多いので、会いたい。	03柏崎
965	コミュニティ	町民が集まれる条件(お酒、一泊にするなど)が必要。車で集まるとお酒が飲めない。	04加須
974	人の絆	お金も必要だが、人の絆を保つ仕組みも必要。7000人のまちづくりに興味がなくて来ない人もいるが、どっかで繋がってるんだから。	04加須
980	絆	「今どこにいるの？」が双葉町の人たちに会うときに合言葉になった。	04加須
988	情報	インターネットは年配の人は使えないから、勝手に情報が映る情報端末を各家庭に。	04加須
996	祭りの	各地の村祭りがあった。	04加須
997	町民の集まり	元の行政区の集まりの方が、顔も知っているので良かった。懐かしい。	04加須
998	イベント	イベントがあった。	04加須
1043	電話帳	連絡をとれるようにしてほしい。	04加須
1044	震災フォトフレーム	役場より配られたフォトフレームで現状の町や会合の情報が流れるのが便利。	04加須
1051	施設	大きい建物はいらないが、皆で気楽にしゃべれる所がほしい。	04加須

no.	タイトル	本文（意見の内容）	会議会場
1063	活力	こうやって話し合うと明日への活力が湧く。	04加須
1084	ハングアウト	ハングアウトによるコミュニケーション。	04加須
1103	情報交信	情報交信の環境、アイデアが貧しい。	04加須
1117	情報	双葉町民の都道府県別避難者数を知りたい。パソコンを使わなくても最新情報を知りたい。	04加須
1122	力	あらゆるコミュニティを断ち切られた双葉町町民。その私たちが本当の復興を果たしたならば、それは今後の日本の宝になる。	04加須
1129	情報	情報があるということ、その信頼性を高めることによって意思決定の補助になる。	04加須
1168	つながり	若い世代は、避難地での人とのつながりができることによって、今までの繋がりから変化している。	04加須
1241	一致団結	町づくりは、役場職員と町民が一致団結しなければ進まない。一部の人にしか情報が伝わってない。	05いわき
1313	情報提供	今生きていく上で、もう決めていかななくてはならないので、具体的な情報提供をしてほしい。	05いわき
1387	住民の電話帳	住民の電話帳をつくってほしい。個人の承認を得ればできるはず。	05いわき
1457	お年寄りの娯楽	お年寄りの楽しみ、旅行などのコミュニケーションを増やしてほしい。	05いわき
1552	情報	情報が役場に伝わらないため、タイミングがずれてしまう事が多く、損してしまう。	06郡山
1559	暮らし	地域の人ごとに集まりたい。	06郡山
1564	緊急連絡の仲介	緊急の連絡先を仲介して教えてもらえるような機関、仕組みが必要である。	06郡山
1567	医療について	以前のかかりつけ医との連絡手段が分からなかった。	06郡山
1577	情報について	役場が情報を与えることによって絆が生まれる。仮設住宅だと情報が入りやすい。	06郡山
1589	情報不足	役場からの情報がない。	06郡山
1590	連絡先	役場はプライバシー保護で個人情報(親戚でも)連絡先を教えもらえなかった。	06郡山
1592	放射能	放射能の情報や、放射能についてもっと知りたいし、学びたい。	06郡山
1595	放射能	放射能についての最低限の情報、勉強をすべきだろう。	06郡山
1597	情報	分からないことが多い。プライバシーの侵害になってしまうため、個人情報を教えてもらえない。	06郡山
1602	情報	借り上げ住宅は孤独で、情報が入ってきづらい。	06郡山
1633	集まる場	住民の集会場をつくって、月に一回集まって食事会やお茶会などをしてほしい。町全体での住民の交流を増やしたい。住民が自由に使えるタブレット端末を町で無料で貸し出してくれると、情報が早く伝わるのでよいと思う。	06郡山
1636	集会場	地域に限定せず双葉町全体が集まる場が欲しい(無料で)。	06郡山
1638	東電へ2	双葉町皆で集まって食事をするような場が欲しい(食費は東電)。	06郡山
1644	コミュニティ施設	仮町役場と、みんなで集まるコミュニティスペースのある複合的施設がほしい。	06郡山
1645	住民の集い	住民の集会所をつくり、月一回集まって食事をつくる。	06郡山
1695	絆	風土に対する絆。	06郡山
1698	交流	ご近所や友達との交流を取り戻したい。	06郡山
1699	新しい企画	コミュニティで集まって新しい企画を始めたい。	06郡山
1700	気持ちの共有	気持ちを共有する人が避難地にいない。	06郡山
1701	ネットワークの構築	家族、友達などのネットワークの構築。	06郡山
1711	コミュニティ	家族や友達との絆を取り戻したいので、町のコミュニティ、集まりの機会を増やしてほしい。	06郡山
1756	地域によって情報に差がある	避難している人に、福島の情報を中心に伝える仕組みをつくってほしい。	06郡山
1758	イベント再開を求む	双葉のイベントを再開したい。(避難先との共催もあり)	06郡山
1759	情報がほしい	フォトフレームの情報が最新でない。最新の情報がほしい。	06郡山
1771	情報公開してほしい	再建、賠償関連のノウハウを集めて、みんなに情報公開してほしい。	06郡山
1799	気がついたら	情報も得られず、気が付けば雪国に避難していた。	06郡山
1806	情報	悪い噂や情報ばかり。更に不安になる。もっと沢山の情報交換をしたい。	06郡山
1815	補償情報	補償関係の情報が不足している。	06郡山
1821	窓口	様々な事への窓口が分からない。明確にしてほしい。	06郡山
1896	コミュニティの崩壊	近所の人達の居場所がわからない。コミュニティの絆が完全になくなってしまった。	07つくば
1942	避難生活の課題	交流会に行きたいけれど行けない人に声かけをしていたが、それがなくなってきているのが残念。今日来れない人の代弁でもある。	07つくば
1944	長引く避難生活での課題	ずっとこの町(避難先)にいるのであればよい。人間関係を継続させるのがよいが、今の生活では諦めてしまう現状がある。	07つくば
1945	地域の人たちの現状	議会懇談会で愛媛に避難している人の現状の暮らしぶりを知った。役場事務機能としてやるべき。	07つくば
1947	避難生活での課題	この時間を使って絆づくり。	07つくば

no.	タイトル	本文（意見の内容）	会議会場
1948	議員交流会の提案	議員交流会をやって、町を超えて情報共有、意見交換してほしい。地域のエゴを超えて。	07つくば
1949	今後の町としての支援	公営住宅に住む人について、タイミング的に早い遅いがある場合、そこに差があってはいけない。	07つくば
1957	双葉町の存続	町を存続するために、会議に参加して人とのつながりを持つことは、やはり必要だと強く感じる。	07つくば
2013	情報共有	情報がないのが不安。会議などにはなるべく参加するようにしている。	07つくば
2060	交流施設	仮設か自治体（コミュニティ）ごとに、交流スペースや宿泊場所をつくってほしい。	07つくば
2061	情報交換	電子掲示板は一方。双方向の情報交換ができるツールがあれば便利。	07つくば
2072	交流のための支援	交流したいが距離がある。何とかしてほしい。	07つくば
2078	情報交換	町民同士が情報交換できる場所がほしい。	07つくば
2079	自立した人の交流手段	国県の動きが悪いので、新しい土地に新しい生活が始まる人もいる。町外に出た人も交流できる場所が必要。	07つくば
2085	広報	町民号を再開してほしい。	07つくば
2086	イベント	町民みんなが一カ所に集まるイベントを行ってほしい。	07つくば
2134	人口減による対応	婦人学級を改め、生活学級とする。（人口減のため）	07つくば
2183	人間関係	震災で人間関係が冷えきってしまった。家族、行政区自体も崩れつつある。	07つくば

第2回 双葉町復興まちづくり委員会 きずな部会 議事概要

■日 時 : 平成24年11月26日(月) 午後1時～午後2時45分

■場 所 : 双葉町役場埼玉支所 4階 4-C

■出席者 : 別紙座席表のとおり

■議事概要

1. 開会

2. 議事

(1) 双葉町の歴史・伝統・文化の継承について(審議)

資料2、3、4に基づき、事務局、オブザーバーより説明後、質疑。委員の主な意見は、以下のとおり。

- 文化財の保存について、指定文化財等は行政が保存するとして、個人所有の文化的価値があるものについて調査し、保存する必要がある。
- 5年で双葉町へ帰れるのか、150年で帰れるのか目標を議論すべき。
- 文化財よりも生活文化をどうするかが課題。歴史の中で残ってきたものには理由があるはず。有形、無形の写真を集めることも必要ではないか。
- 歴史民俗資料館へ収蔵されている重要なものは、福島県内の施設へ持ち出している。
- 検討すべき課題は二つある。継承すべき歴史・伝統・文化、あるいは双葉町そのものをどう継承するかということが一つ。また、二つ目としては、継承するための人の絆をどうつないで、人を育成するかということ。
- 町のコミュニティがバラバラに崩壊してしまっている中で、地域としての歴史・伝統・文化を復元する作業を進めるには、一人ではなかなか無理がある。調査チームなどの体制づくりも有効な手段なのではないか。
- 地域で語られていたものが失われていく。文化伝承は人から人へ語られるもの。今、資料として調査・整理しなければ、10年後には語り手が居なくなってしまう。個人的に地元地域の高齢者に対して聞き取り調査を行っている。
- 伝統・文化は、双葉町の長い歴史の中で生まれて、育まれて、今日まで守り伝わって来たもの。町の貴重な財産であり、町民の基礎を成してきたもの(アイデンティティ)。これを将来に向け、どのように向上、発展させていくかが大事。
- 文化財を大切に保存して、これを次の世代に継承することが大事。そのためには、文化財について積極的に公開・活用することにより、双葉町民に広く親しめるようにしていく必要がある。
- 双葉町が世界的に伝えるべきものは、原子力事故災害のことではないか。
- コミュニティの維持のためには、イベントなどで人を1ヶ所に集めることも重

要。遠方の避難先から集めるには、交通費・宿泊費の助成など、負担を軽減する支援策を検討すべき。また、所要の経費について、国などに訴えていくことも大事。

○町民だけの議論ではなく、学者や専門家などの意見を聞くことも必要ではないか。

○何よりも伝えていくことが大切。そのためには、記憶よりも記録にとっておく必要がある。

○子どもたちの通う学校が必要なのはもちろんだが、双葉町の伝統・文化など、ものを伝える仕組みとしての学校も考えるべき。

○伝統芸能については、まったく新たなものを生み出すのではなく、既存の文化を掘り起こすことで、新たな価値を創出できるのではないか。

(2) その他

3. その他

4. 閉会